



Spotlight

スポットライト



第8回米-1グランプリで優勝

佐々木哲三さん

財田米のおいしさを
多くの人に知ってもらいたい

profile

昭和42年12月27日生まれ。小学校3年生～大学卒業まで剣道をしていて、3段の腕前を持っている。財田在住。51歳。

「財田は土地が肥沃で水はけがよく、とても良い土に恵まれています。その土から収穫されるお米は甘味がすこく、とてもおいしいです」
財田米の魅力を語るのは、11月17日に蘭越で開催された日本一おいしい米を決める「第8回米-1グランプリ」で優勝した佐々木哲三さん。「まさか優勝できるなんて思ってもいなかった。自分たちが1番驚いている」と謙虚に話します。

佐々木さんは別海町の出身で、大学を卒業後、日本自動車連盟（JAF）に就職しました。奥さんの実家が財田で132年続く稲作農家。4人姉妹のため、後継者がいなかったことから、開拓から続く4代目までのコメ作りへの思いを受け取り、45歳の時に一大決心をして、退職し、札幌から移り住んで農家を継ぐことにしました。「こんなにおいしいコメを

ない。この味を守っていききたい」

いきなり仕事環境が変わり、技術的な不安や5代目としての重圧が大きかったと言います。それでも、田園風景や収穫の喜びに勝るものはなく、すべての労苦を帳消しにしてくれます。

「今は、だんだんコメを食べなくなってきた。コメの本当のおいしさを伝えていきたい」との思いでコメ作りを行ってきましたが、財田米は販路が狭く、地元近辺が主な販売となっていたため、知名度がなかなか上がりず、頭を悩ませていました。

大会での優勝は、「財田米の存在を世の中に認知してもらう意味で大きな一歩だ」と話します。すでに反響は大きく、道内、道外へと販路を広げていくことも視野に入れます。

「財田地区の稲作農家は後継ぎを探すのが難しくなっている。財田米の知名度を上げて、財田地区の農業を盛り上げていきたこ」

東奔西走

明 けましておめでとうございます。今年もたくさんのイベントの取材を行い、人との出会いを大切にしていきたいです。今年もよろしくお祈りします。(C.K)
謹 賀新年。新しい年が始まりました。今年の干支の亥年は、次に向けてのエネルギーを貯める年で、外部でなく内部の充実を心がける年とされます。次の飛躍に向けていろいろな場面で精進していきたいと思っています。(H.O)

今月のワンショット



サンタさんからプレゼントをもらう子どもたち



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

